

企画展「看護の力」と特別講演会を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、10月20日(木)から1月31日(火)までの間、企画展「看護の力—医学部史料室所蔵資料に見る看護のあゆみ—」を開催しました。近代看護を確立させたフローレンス・ナイチンゲールの誕生から200年を経て、今日、傷病者の手当てから大規模災害時の復興支援など様々な状況において、看護はその力を発揮してきました。



展示会の様子

た。企画展では、同館4階にある医学部史料室に所蔵する図書、写真などを展示公開しました。

1884年に愛知病院(名大病院の前身)の職制が改正され、「従来本院看護人には男子を用いしが之を解雇し更に婦人を採用することに改」め、1891年に「看護人を看護婦と称し尋て制服を定め直に施行」し、1894年には愛知医学校看護婦養成所看護科が設置されました。本学における看護教育、看護の歴史の貴重な記録や、愛知県立医学専門学校の卒業アルバムに掲載された看護師の写真などにより、取り巻く環境の変遷を分かり易く展示しました。

20世紀初頭の看護の教科書の中には、仁川陸軍造兵廠従軍看護婦養成所(韓国)で実際に使われていた『日新看護学』もあり、阪神・淡路大震災と東日本大震災における活動記録など多彩な資料は、来館者の関心を集めました。

また、会期中の12月16日(金)には、福田真人国際言語文化研究科教授による「結核のロマン化と病気の本質」と題する特別講演会を開催しました。ポツィチェリ『ヴィーナスの誕生』のモデルの女性や文学、音楽、絵画など古今東西の結核に関係する実例を紹介して、結核を文化史的に解明し、参加者の知的好奇心を大いに刺激しました。

第127回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、1月17日(火)、減災館1階減災ホールにおいて、第127回防災アカデミーを開催しました。今回は、片山新太未来材料・システム研究所教授が「災害時の環境衛生」と題して講演を行い、77名の参加がありました。22年前のこの日は、阪神・淡路大震災が発生した日です。あの時も、命が助かった人々がまず直面した問題

の一つが、災害時の水の問題でした。

講演では、まず平常時に我々の衛生環境を守っている上下水道の整備の歴史や仕組みが丁寧に説明されました。災害時はそれらが一挙に失われる結果、コレラが蔓延した100年前の状況に戻るというショッキングな現実があることも知らされました。普段何気なく水道の蛇口から出る清潔な水を使っていますが、災害時に給水車などで供給される同等の水の量はその十分の一だそうです。その他の水を使おうとすれば、当然、消毒(除菌)が必要となります。そのような環境の中で、いかに身の回りの物をうまく利用して凌いでいけるかについても貴重な助言がありました。井戸水を生活用水として使っていた時代に、先人から伝わる飲み水についての注意点と重なることも多々ありました。

普段、衛生的な環境に慣れている多くの参加者にとって、災害時には、慎重には慎重を期して水と付き合っていくことが重要であることをあらためて感じる有意義な機会となりました。



講演する片山教授